

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-024033

(43)Date of publication of application : 30.01.1996

(51)Int.Cl.

A45D 2/00

(21)Application number : 06-190881

(71)Applicant : IZAWA MICHIO

(22)Date of filing : 11.07.1994

(72)Inventor : IZAWA MICHIO

## (54) HEATING SHEET

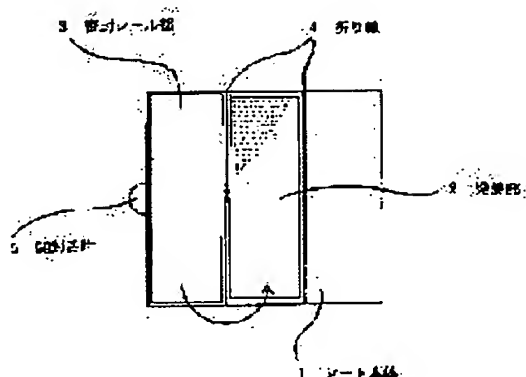
### (57)Abstract:

PURPOSE: To make a heating sheet usable for the hair by unsealing a disposable heating sheet body formed by sticking an exothermic part folded via folding lines to a hermetic sealing part.

CONSTITUTION: A user unseals the stuck sheet body 1 by clamping an unsealing tongue piece 5, etc., to expose the exothermic part 2, thereby bringing this part into exothermic reaction with air to initiate heat generation. The user overlaps the hair of the part desired to be curled or waved on the exothermic part 2 of the sheet body 1 rounded to a cylindrical form toward the longitudinal direction of the exothermic part 2.

The user winds up the body 1 successively to the head top in a manner so as to roll in the hair as it is. The user bends both side parts of the sheet body rounded to the cylindrical form to the center and fasten both side parts by twisting these parts with each other. Both side parts of the sheet

body 1 are fastened to each other by tacky adhesive tapes or rubber bands, etc., and are fixed in a manner so as not to move. The sheet body is held as it is for a specified time. The hair is then curled or waved by the exothermic effect of the exothermic part 2.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-24033

(43) 公開日 平成8年(1996)1月30日

(51) Int. Cl.<sup>5</sup>

A 4 5 D 2/00

識別記号

庁内整理番号

Z

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平6-190881

(22) 出願日 平成6年(1994)7月11日

(71) 出願人 594056063

伊沢 道雄

神奈川県横浜市港北区綱島東3-6-15-408

(72) 発明者 伊沢 道雄

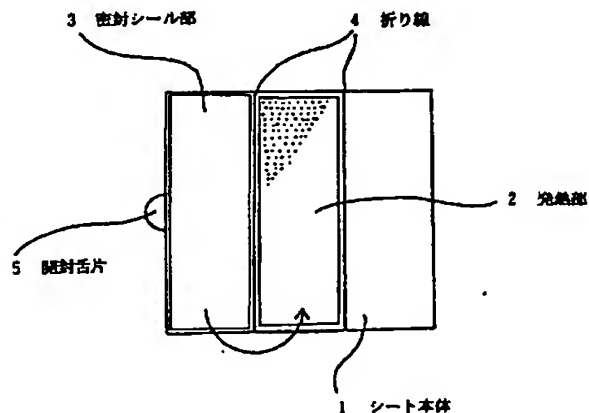
神奈川県横浜市港北区綱島東3-6-15-408  
一サイズミ408

(54) 【発明の名称】 加温シート

(57) 【要約】

【目的】 本発明は安価で手軽な使用が可能な、主に頭髮の加温に用いる使い捨て用の加温シートを提供することを目的とする。

【構成】 シート本体に発熱部および密封シール部を帯状に設けるとともに、折り線を介してシート本体を折りたたんで発熱部と密封シール部を貼り合わせたことを特徴とする。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】シート本体に発熱部および密封シール部を帯状に設けるとともに、折り線を介してシート本体を折りたたんで発熱部と密封シール部を貼り合わせた加温シート。

【請求項2】針金芯等の固定手段を有するシート本体に発熱部、密封シール部を帯状に設けるとともに、折り線を介してシート本体を折りたたんで発熱部と密封部を貼り合わせた加温シート。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は安価で手軽な使用が可能な、主に頭髮の加温に用いる使い捨て用の加温シートに関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、頭髮にカールやウェーブを施すため、あるいはパーマにより施されたカールやウェーブを維持するためにはヘアードライヤーとヘアブラシを用いていた。しかし、ドライヤーとブラシを使っている作業は手間と時間がかかるうえ、電源を必要とするために使用場所も限定されてしまう。そこで、カールやウェーブを容易に施すことができ、携帯に供することもできる手段として、

【図18】に示すような加温ヘアカーラーが用いられていた。加温ヘアカーラーは、ヒゲ状突起と孔を設けた筒状の容器体に発熱体を収納した構成よりなり、これを頭髮の所望部分に巻きつけて放置し、発熱作用によりカールやウェーブを施すものである。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の加温ヘアカーラーには次のような問題点があった。

(イ) 携帯に供することはできるが、筒状のヘアカーラー容器体は体積が大きく、かさばるため、複数個の携帯は困難である。とくに主な使用者である女性が持ち歩くバック類は容量が小さいため、加温ヘアカーラーの収納に困っていた。

(ロ) 合成樹脂等から形成された加温ヘアカーラー容器体は比較的価格が高いため、使用後にそのまま捨ててしまうことがめらわれる。したがって携帯に供されるのが主であるにもかかわらず、使い捨て用として気軽に使用することができなかった。

(ハ) 加温ヘアカーラーは容器体と発熱体とが別体になっており、発熱体は使い捨てとなっている。したがって日常的に連続して使用するには常に補充用の発熱体を用意しておかなければならず面倒である。また、補充用の発熱体が市場に提供されなくなるとは使用できなくなってしまう。

(ニ) 加温ヘアカーラーの別体式の発熱体は、空気と反応して発熱するため袋に密封されて用意されている。したがって加温ヘアカーラーを使用する度に、いちいち袋

から発熱体を取り出し、そしてヘアカーラー容器体に詰め替えなければならぬ煩わしかった。

(ホ) 加温ヘアカーラーは筒状の容器体に頭髮を巻きつけて使用するものである。したがって容器体の内側に巻かれた髪に比べて外側に巻かれた髪は十分加温されず、カールやウェーブをきれいに施すことができなかった。

(ヘ) 加温ヘアカーラーの形状は筒状であるので、その使い方が限定される。即ち、筒状の加温ヘアカーラー容器体の周囲に髪を巻きつけて加温するのみであり、その他の使い方、他の用途への転用が不可能であった。

本発明は以上の問題点を解決し、安価で手軽な使用ができる使い捨て用加温シートを実現するとともに、従来の加温ヘアカーラーには無い用途への使用も可能ならしめんとするものである。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】シート本体または針金芯等の固定手段を有するシート本体に発熱部および密封シール部を帯状に設けるとともに、折り線を介してシート本体を折りたたんで発熱部と密封シール部を貼り合わせる。本発明は以上の構成よりなる加温シートである。

## 【0005】

【作用】折りたたまれて発熱部と密封シール部が貼り合わされたシート本体を開封する。発熱部には空気と反応する発熱剤を用いているので開封により発熱する。シート本体を丸めて筒状にし、発熱部にカールやウェーブを施したい部分の頭髮をかさねる。頭髮をそのまま巻き込むようにしてシート本体を頭頂部へ巻き上げていく。所定の位置まで巻き上げたら、筒状に丸められたシート体の両面部を中央に折り曲げ、お互いをねじって留める。あるいは、粘着テープや輪ゴム等によりまたはシート本体の一部に設けられた固定手段によりシート本体の両側部同士を留めて、ずれたり動かないよう固定する。このまま一定時間放置することにより発熱作用により頭髮にカールやウェーブが施される。または、シート本体を開いた状態で発熱部に頭髮を重ね、該頭髮を包み込むようにしてシート本体を折りたたむ。折りたたまれたシート本体を所定の位置まで巻き上げて固定手段により固定し、頭髮への加温を行う。

## 【0006】

【実施例】以下図面に従い本発明の実施例につき説明する。

【図1】は請求項1記載の本発明を示す斜視図。

【図2】は本発明を開封した状態を示す平面図である。請求項1記載の本発明の構成は、シート本体(1)に発熱部(2)および密封シール部(3)を帯状に設けるとともに、折り線(4)を介してシート本体(1)を折りたたんで発熱部(2)と密封シール部(3)を貼りあわせて成るものである。以下詳述する。

【0007】シート本体(1)の素材として、紙、合成樹脂、アルミ等の金属、不織布等の布地類他が考えられ

るが、特に限定されるものではない。ただし、本発明の目的が安価で手軽に使用できる使い捨ての加温シートを提供することにあるから、シート本体(1)には低廉な素材を用いることが好ましい。

【0008】シート本体(1)の形状は方形であることが好ましいが、特にこれに限定されるものではない。形状が方形である場合そのサイズは1辺20cmから30cm前後が適当である。

【0009】シート本体(1)表面に折り線(4)を1本あるいは複数本設けて数面に分割する。そのうち1面に発熱部(2)を、他の面には密封シール部(3)を、各々帯状に設ける。発熱部(2)はシート本体(1)の中央付近に設けることが望ましい。

【0010】発熱部(2)には、空気あるいは水と発熱反応する自己燃焼性の発熱材を用いる。例えば鉄粉や生石灰を生成成分とする発熱材を直接シート本体(1)に貼着する。もしくは発熱材に弾性素材、可塑性素材を混合してシート状に加工したものをシート本体(1)に貼着する。市販の使い捨てカイロのように長尺の不織布袋に発熱材を封入したものをシート本体(1)に貼着してもよい。シート本体(1)が通気性の素材である場合には、貼着面に気密加工を施したうえで発熱材を貼着する。発熱部(2)により発せられる温度は45度から60度前後が適当であり、使用者の髪質にあわせて選択できるよう、異なる温度の加温シートをいくつか用意するとよい。発熱部(2)は30分程度発熱できるものであれば十分であるが、発熱時間は使用方法や目的にあわせて調整すればよい。

【0011】密封シール部(3)には合成樹脂フィルム等の気密性の素材を用いる。また、発熱部(2)に貼り合わせて密封するために、粘着加工を施す。

【0012】折り線(4)を介してシート本体(1)を折りたたみ、発熱部(2)と密封シール部(3)を貼り合わせる。

【図1】に示すように余剰部分をさらに折りたたんだり、

【図3】に示すように加温シート全体をさらに2つに折りにして手帳サイズ程度にコンパクトにすることができ、シート本体の端部に開封舌片(5)を設けて、貼り合わされたシート本体の開封を容易にするとよい。

【0013】シート本体(1)の表面および裏面に、加温シートの販売の際の商品名や、使用方法、使用上の注意、あるいは宣伝広告等を印刷することができる。請求項1記載の本発明の構成は以上のとおりであり、次にその使用方法を述べる。

【0014】開封舌片(5)等をつかんで貼り合わされたシート本体(1)を開封し、発熱部(2)を露出させる。発熱部(2)に空気と発熱反応する発熱材を用いている場合にはこの時点で発熱を始める。

【図4】、

【図5】に示すようにシート本体(1)を、帯状に設けられた発熱部(2)の長手方向に向かって丸めて筒状にする。筒状となったシート本体(1)の発熱部(2)に、カールやウェーブを施したい部分の頭髮をかさねる。

【図6】に示すように、頭髮をそのまま巻き込むようにしてシート本体(1)を頭頂部へ巻き上げていく。所定の位置まで巻き上げたら、

【図7】に示すように筒状に丸められたシート本体(1)の両側部を中央に折り曲げ、お互いをねじって留める。あるいは

【図8】に示すように粘着テープや輪ゴム等によりシート本体(1)の両側部同士を留めて、ずれたり動かないよう固定する。そのまま一定時間放置することにより発熱部の発熱作用により頭髮にカールやウェーブが施される。発熱部(2)に水と発熱反応する発熱材を用いている場合は、頭髮(H)を濡らしたうえで上記操作を行う。

【0015】本発明の基本的な使用方法是以上のとおりであるが、次のように使用することもできる。

【図9】に示すように、カールやウェーブを施したい部分の頭髮(H)を、帯状の発熱部(2)に重ねる。ウェーブを施したい場合には頭髮(H)を数回ねじってから重ねる。頭髮(H)を包み込むようにしてシート本体(1)を折りたたむ。密封シール部(3)には粘着加工が施されているので、折りたたまれたシート本体(1)が開いてしまったり、ずれてしまうことがない。

【図10】に示すように、頭髮(H)を包み込むよう折りたたまれたシート本体(1)を頭頂部へ巻き上げていく。所定の位置まで巻き上がったら、

【図11】に示すようにシート本体が開いてしまったり、ずれてしまうことがないように粘着テープや輪ゴムを用いて固定する。そのまま一定時間放置することにより発熱部の発熱作用により頭髮にカールやウェーブが施される。

【0016】請求項2記載の本発明の構成、作用は基本的には請求項1記載の発明と同様であるが、以下の点で異なる。

【図12】に示すように、シート本体(1)の端部に固定手段(6)を設ける。請求項1記載の発明では、頭髮(H)を巻き込んだり包み込んだシート本体(1)を所定の位置まで巻き上げた後、何らかの手段を用いてシート本体(1)を固定しなければならなかった。しかし、請求項2記載の本発明ではシート本体(1)自体に固定手段(6)が設けられているので、

【図14】に示すようにその場で迅速に固定することができるものである。固定手段の具体的構成としては、

【図12】に示すような舌片状の粘着テープや、

【図13】に示すように、シート本体(1)の端部に切り込みを入れて帯状の粘着テープを設けるものが考えら

5

れる。固定手段(6)として、

【図15】に示すように針金芯を帯状の発熱体(2)の長手方向に沿ってシート本体(1)に設けてもよい。この構成によれば、シート本体(1)を巻き上げていくと固定手段(6)である針金芯の作用によりそのままの形で保持されるため、わざわざ粘着テープ等を用いて固定する必要がなくなる。また、

【図16】に示すように固定手段(6)である針金芯を、シート本体(1)端部に設けてもよい。これにより、

【図17】に示すように筒状に丸められたシート本体(1)の両側部を中央に向かって折りたたむだけでそのまま保持される。

【0017】

【発明の効果】請求項1記載の本発明は、シート本体に発熱部および密封シール部を帯状に設けるとともに、折り線を介してシート本体を折りたたんで発熱部と密封シール部を貼り合わせた構成よりなる加温シートであり、その作用は前記のとおりである。したがって以下の効果を奏する。

(イ) 加温シートは形状がシート状でコンパクトであるので、バックの隙間やポケット等に複数収納でき、携帯性が極めて優れている。

(ロ) 加温シートは構造が単純で製造が容易であるうえ、シート本体に紙等の低廉な素材を使用できるので、極めて安価な商品として実現され、気軽に使い捨てることができる。

(ハ) 加温シートは、密封シール部が発熱部に貼り合わせられるよう折りたたまれている。したがって加温シートを開封するだけで発熱部が露出し、水や空気と反応して直ちに発熱が開始される。即ち従来品のように、わざわざ密封袋から発熱体を取り出してこれを容器体に詰めなければならないといった煩わしさが無く、迅速にカールやウェーブを頭髮に施すことができる。

(ニ) 加温シートには発熱部が帯状に設けられている。したがって該部分に頭髮を包み込んで巻き上げることで、頭髮全体が直接加温され、カールやウェーブをしっかり施すことができる。

(ホ) シート本体の端部に開封舌片を設けることにより、加温シートを開封を容易とすることができる。

(ヘ) 加温シートのシート本体表面および裏面に文字やデザインを印刷することができる。したがってシート本体に販売の際の商品名や、使用方法、使用上の注意等を印刷することにより、パッケージ(包装)を簡素化することができ、商品のさらなる低価格化を実現することができる。またシート本体に広告等を印刷することにより、無料で配付される販促品として加温シートを用いることができる。

(ト) 本発明の加温シートの使用方法のひとつとして、シート本体で頭髮を包み込んでこれを巻き上げ、発熱部

6

により加温することができる。したがって、従来の筒状の加温ヘアカーラーのように頭髮にカールやウェーブを施す用途に限られず、広く他の用途にも使用することができる。例えば、頭髮にパーマをかけたり、染毛したり、トリートメントを施す際に加温シートを使用することにより、パーマ液や染毛剤、トリートメント液の頭髮への浸透を促進することができる。即ちパーマ液や染毛剤、トリートメント液等を塗布した頭髮を加温シートの本体により包み込んでこれを巻き上げて固定することにより、パーマ液等が流れ落ちてしまったり肌や衣類に触れることを防ぎつつ、発熱部により一定時間加温され、頭髮への浸透が促進されるものである。

(チ) 構造が単純で、低廉な素材より成る本発明の加温シートは安価で気軽に使い捨てができる。したがって従来の加温ヘアカーラーのように個人的使用の用途に限らず、広く業務用にも使用することかできる。即ち、不特定多数の客が訪れる美容院や理容室では、頭髮に直接触れるヘアカーラー類は使用の度に洗浄することが必要であり、作業が面倒で時間がかかっていた。しかし、本発明の加温シートによれば使用後は気軽に捨てて、新たな加温シートを用意すればよいことから、多数の客の頭髮に対する作業が容易に迅速に行うことができる。

(チ) 本発明の加温シート本体は、形状がシート状であればよく、その素材は問わない。したがって加温シートの使用方法・使用目的に応じて最適な素材を用いることができる。

(ヌ) 本発明の加温シート本体に紙を用いることにより吸湿作用を持たせることができる。即ち、濡れた頭髮に加温シートを用いると水分が熱によりスチーム状となり必要以上の高温となって頭髮を傷めてしまう。この場合でも紙でできた加温シート本体がスチームを吸湿して高温化を防ぐことができる。請求項2記載の本発明は加温シートのシート本体に固定手段を設けている。したがって上記効果に加えて以下の効果を奏する。

(ル) 頭髮を巻き込んだり包み込んだシート本体を所定の位置まで巻き上げた後に、粘着テープや輪ゴム等の他の手段を用いることなくシート本体を迅速に固定することかできる。とくに固定手段として針金芯を用いると、シート本体を巻き上げたり、曲げたりするだけでその形のまま保持固定されるので、わざわざ固定作業を行う必要がなく便利である。本発明の加温シートは、シート本体に発熱部を設けた構成からなる。したがって頭髮への加温に加えて以下の効果も有する。

(ヲ) 加温シートに食品類を包んで、保温・加温することができる。例えば朝作った弁当を昼に食べる時など、ポケットや弁当箱の隙間に携帯していた加温シートを取り出し、冷めた弁当を弁当箱ごと加温することができる。

(カ) 病気やケガの患部に加温シートを当てたり包んだりして保温・加温することができる。加温シートはシー

ト状でコンパクトであるので、例えば打身やねんざ等ケガをしやすいスポーツをする時にスポーツウェアのポケットに携帯することができる。

(シ) この他にも加温シートにより様々な対象物を保温・加温することができる。加温シートは構造が単純であるので対象物にあわせて容易にサイズ、発熱量を調節することが可能である。また、加温シートはシート状であるので曲面や凹凸のある対象物であっても密着させて十分に保温・加温することができる。

【0018】

【図面の簡単な説明】

【図1】 請求項1記載の本発明の実施例を示す斜視図である。

【図2】 請求項1記載の本発明の実施例を示す平面図である。

【図3】 請求項1記載の本発明の実施例を示す斜視図である。

【図4】 請求項1記載の本発明の使用状態を示す斜視図である。

【図5】 請求項1記載の本発明の使用状態を示す斜視図である。

【図6】 請求項1記載の本発明の使用状態を示す斜視図である。

【図7】 請求項1記載の本発明の使用状態を示す斜視図である。

【図8】 請求項1記載の本発明の使用状態を示す斜視図である。

【図9】 請求項1記載の本発明の使用状態を示す斜視図である。

【図10】 請求項1記載の本発明の使用状態を示す斜視 \* 30

\* 図である。

【図11】 請求項1記載の本発明の使用状態を示す斜視図である。

【図12】 請求項2記載の本発明の実施例を示す平面図である。

【図13】 請求項2記載の本発明の実施例を示す平面図である。

【図14】 請求項2記載の本発明の使用状態を示す斜視図である。

10 【図15】 請求項2記載の本発明の実施例を示す平面図である。

【図16】 請求項2記載の本発明の実施例を示す平面図である。

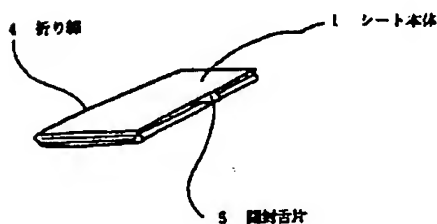
【図17】 請求項2記載の本発明の使用状態を示す斜視図である。

【図18】 従来の加温ヘアカーラーの構成を示す斜視図である。

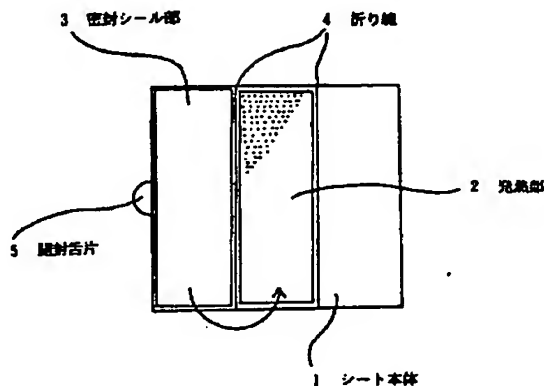
【符号の説明】

- 1 シート本体
- 2 発熱部
- 3 密封シール部
- 4 折り線
- 5 開封舌片
- 6 固定手段
- H 頭髮
- 10 筒状容器体
- 11 ヒゲ状突起
- 12 孔
- 13 発熱体
- 14 蓋

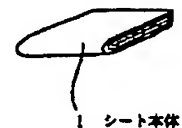
【図1】



【図2】



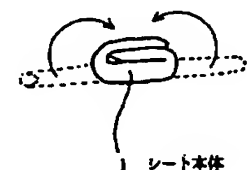
【図3】



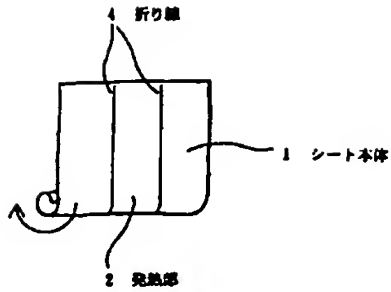
【図5】



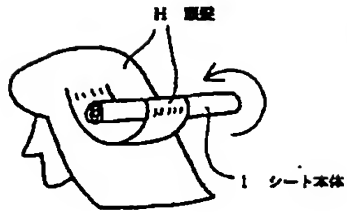
【図17】



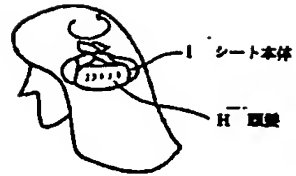
【図4】



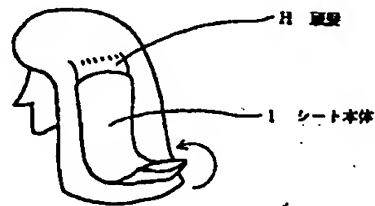
【図6】



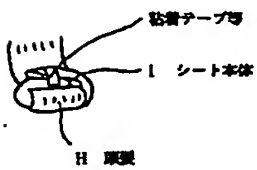
【図7】



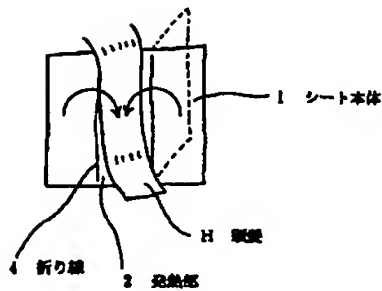
【図10】



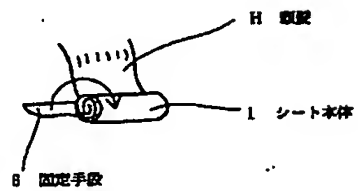
【図8】



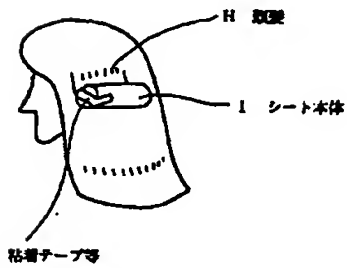
【図9】



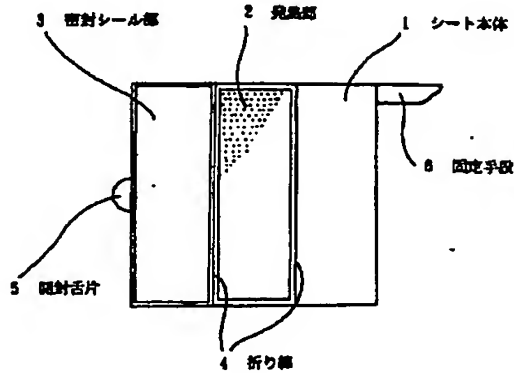
【図14】



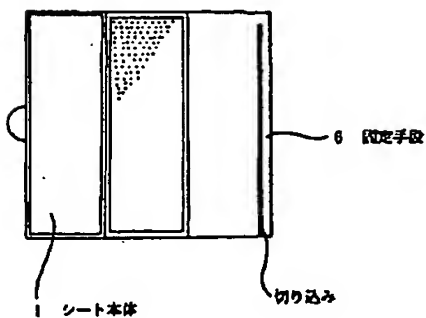
【図11】



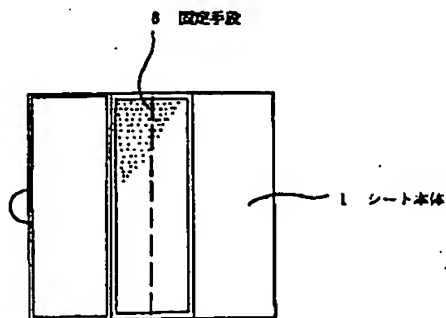
【図12】



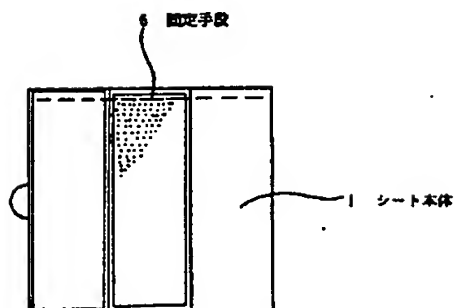
【図13】



【図15】



【図16】



【図18】

